

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200129		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームたろう		
所在地	岩手県宮古市崎楯ヶ崎第9地割39番地1		
自己評価作成日	平成26年11月21日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0390200129-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

再開所して1年になる頃、同法人で、田老地区にグループホームが開所した事で、入居者様と職員の半分以上が入れ替わり、気持ち新たに2年目を迎えました。今年度は、くもんの学習療法を「やりたい」と、希望している入居者様に対応できるよう、常勤職員は、学習療法1級・支援者の資格を持ち、隣接する介護老人保健施設と連携して支援しています。御家族様の面会も多く、入居者様が安心してホームで生活ができ、今できることが継続できるよう、「今日を大切に生きる」の理念のもと、日常の支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大震災の悲しみを経て、平成25年3月27日に、本地区に再開所して2年目となる。同法人で、平成26年度、田老地区に新規のグループホームを開所したことに伴い、利用者と職員の約半数が入れ替わる状況となった。利用者との関わりの方では「今日を大切に生きる」の理念を日常的に展開しており、笑顔で明るく、元気な取組みが見られた。特に、①日々の日課でラジオ体操と炭坑節のテープを流し、利用者と職員と一緒に輪を作り、歌い、踊り、体を動かし活性化を図っていることは、笑顔作りの源となるので、優れた取組みである。②希望する利用者にくもん学習療法(足算中心)を取り入れている。利用者のために、よいことをやろうとする前向きな態度が随所に見られる。③利用者同士で食事や風呂場での着脱等をお互いに支え合うなど、「和」の雰囲気をかもし出している。④隣接に同法人老人保健施設があり、職員研修、防災訓練、様々なイベント、人事交流等で相乗効果を発揮している。今後は、近隣住民の理解や応援が得られるような取組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「今日を大切に生きる」を全職員が共有し、穏やかに笑顔のある1日を過ごせるように、日々の生活を支援している。	毎日の日課で、9時頃からラジオ体操と炭坑節のテープを流し、利用者と一緒に体を動かすことで笑顔を引き出す取り組みをしている。開設時に設定した「今日を大切に生きる」の理念を日常生活の中に活かしている取り組みの工夫が見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある店で買い物をしたり、国道の花壇の手入れ、散歩をして地域の方に挨拶をして、地域交流を図っている。	自治会に加入し、会費も納入している。法人全体で管理している国道45号線沿いの草取り・花壇整備に交代で参加していたり、市内にある支援学校の実習生受け入れをしている。暖かい時期には、散歩等で地区民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生・ボランティアの受け入れをする事で、認知症の人の理解に努めている。また、地域に住んでいる認知症の方が、徘徊している時に、声をかけて保護した事もあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、地域・家族代表の参加あり、ホームの取り組み・利用者様の状況報告を行い、意見交換を行っている。	田老地区に新規のグループホームが開設され、約半数の利用者や職員の変更があったが、2ヶ月に1回開催している。ホームの取り組みの報告や利用者の生活の様子、認知症の勉強会など実施した。メンバーに消防や警察関係の参加も検討する等、事業所等の応援団作りを考えていただきたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に、他事業所の実情や、市のこれからの取り組みなどの意見を聞き、サービスに取り組むよう努力している。	市が開催するケア会議には隣接の老人保健施設の代表者が参加し、その内容は後日、職員に周知される。ホーム独自の行事やお知らせは直接出向いて伝える。利用者の生活状況や急変状況などは常に連絡、報告して連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠・ブザーも無く、見守り・支援を工夫する事で、拘束をしないようにしている。	日中は施錠していない。夜7時以降は防犯対策のため施錠する。身体拘束をしないケアについての勉強会を実施して、情報共有に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、職員間で観察・注意を払い、虐待が見過ごされ事がないよう、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の勉強会を行っている。ホームの利用者様で、利用している方がいない為、活用できる支援はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・御家族様と直接会い、不安を尋ね、解消するよう努め、十分な説明と理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で、機会を設ける以外にも、意見箱を設置しているが、ほとんどの意見・要望は、面会時・電話連絡時に聞き、職員間で共有して運営に反映させている。	ホームの広報誌を年4回発行し、家族や近隣の住民へ配布している。家族の方から「年間の行事予定表を作成してほしい」との希望があり、来年度実施する。車椅子利用の方が3名となり、行事参加が難しくなった。日程も含め、皆が参加できる方法を考えていきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に他職員の意見を聞く体制をとって、毎月の業務会議で、提案・意見交換する機会を設け、運営に反映させている。	業務会議は、月初めに1回実施している。改善点や課題解決の提案は、積極的に聞き、運営に反映している。行事などは、担当者の企画・創意に任せている。法人の規程で「個人目標を立案すること」になっており、管理者と職員の面談を年に3回実施することは必須である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談をして、モチベーションを維持できるように、できるだけ職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的な研修参加の際は、事前に相談をして、研修を受ける時間の確保している。また、法人内外の研修に積極的に参加し、また、それを伝達講習する事により、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換研修や、行事企画で、近隣のグループホームとの交流する機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ホームの見学をして貰い、不安解消に努めている。入居後も、「外に出たい」と要望あれば、毎日でも散歩に付き添い、利用者様の安心を確保するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、ホームの見学して貰い、不安なこと・要望等を聞き、どの様に取り組んでいくかを提示して、御家族様が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は御家族に、他職員は利用者様と会話し、その中でどうしたいのか？全職員と情報共有しながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす事で役割を持ち、1人で困難な事もお互いに助け合い協働している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、通院・使用物品の購入等、できる事は行って頂き、面会・外出・外泊・宿泊など、家族で過ごせる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が面会に来た時は、本人とゆっくり話ができる雰囲気を提供し、馴染みのお店での買い物、ドライブなどの支援をしている。	友人・知人・家族との面会や交流は、頻繁にある。外出した時、通院した時、美容室などで知人や馴染みの人に会い、立ち話や会話など良い関係作りに配慮している。年賀状のやり取りもあり、本人の要望により住所書きなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話したり、食事や行事に参加する時等は、声を掛け合ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に退居しても、遠方の御家族の代わりに、私達にできる支援を行った。また、他の施設に移った利用者様に「会いたい」という方がいれば、一緒に会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望・要望など聞き取り、安心して落ち着いた生活ができるようにし、困難な状況でも、できるだけ希望に添えるよう、時間を見つけて行っている。	コミュニケーションの苦手な方が増えてきている。入浴時や好きな歌を唄ったり、ゲームをしたり、つぶやきを聞き取ったり、創意工夫した対応に心がけている。聞き取りした内容は、必ず申し送りノートに記録し、皆で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握し、その人らしい生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の日常生活を把握し、いつもと違うようであれば、その場にいる職員が状況を記録・申し送ることで情報の共有を行い、カンファレンス時、話し合う事で、できる事の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンス、必要に応じてミニカンファを行い、変更があれば、その現状に合った介護計画を作成している。	利用者ごとの担当者を決めている。毎日、利用者の行動や様子を申し送りノートに記入し、介護計画の作成に反映させている。毎月1回カンファレンスを実施している。見直しや変更が必要な場合は、ケア会議を開いて検討する。家族にも連絡し、了解を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を個別記録に記入し、職員間で情報共有している。新しいケアを行った時も、どの様な変化があったか記録して、継続するかどうかなど行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様の状況(震災で帰る自宅がないとか)によっては、利用者様の部屋で宿泊できるようにしている。くもんの学習療法を行い、個々の利用者様の状態をみて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある店で買い物をして、店員さんと話をしたり、地域の学校との交流・ボランティアの協力を頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族様が希望している病院で、継続して受診できるようにしている。受診に関しては、御家族様に同行を協力して頂いている。	入居前からのかかりつけ医への通院をしている。家族の付添いがない場合は、ホーム職員が付き添っている。病状や普段の様子は、メモをして診察時に持参している。法人(老人保健施設)の訪問看護による医療連携が密接で、健康管理への安心感がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診記録・体調変化等、週1回の訪問看護師に情報提供して、共有に努めている。緊急時の訪問、アドバイスを受けて受診している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで、医師・看護師と情報交換、御家族様と相談しながら対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、御家族様の意向を聞き、ホームでできる事の説明を行っていて、必要に応じて同意書も頂いている。また、かかりつけの医療機関にも話をし、利用者様の状態説明を行っている。	入居時には、ホームとして出来ること等の説明を行い、本人や家族の理解や同意を頂いている。病状の悪化や終末期になると、かかりつけ医が診察し、医師の指示や判断により、医療機関へ入院することが多く、ホームでの看取りの事例はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中・夜間想定で、年2回の避難訓練を行っている。法人内の老健・GH・地域の消防団に、協力をお願いをしている。災害発生時のマニュアルがなかった為、職員と話し合い作成している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定で、年2回の避難訓練を行っている。法人内の老健・GH・地域の消防団に、協力をお願いをしている。災害発生時のマニュアルがなかった為、職員と話し合い作成している。	今年度、災害関連のマニュアルを作成した。年2回、消防署員の立会いで避難訓練を実施している。日中に、夜間想定も実施した。火災時、各部屋からベッドごと外へ避難させる方法をイメージして、部屋の変更等、家族の同意を得て実施している。近隣住民の訓練参加と協力を検討している。	近隣の住宅から離れた場所に位置しているので、災害時に、より確実にホームに駆けつけて、協力してくれる方の確保等が必要と思われる。また、突発的な事態に対応するために、予め役割分担を決め、周知を図っていくことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを尊重した声がけや、状況に合わせた対応(プライバシーを含む)を心掛けて行っている。	本人への面会名簿は、一人ひとりファイル化しており、プライバシーに配慮した対応に心がけている。希望する5名の利用者に「くもん学習療法」(足算中心)を実施している。本人のやる気や活動への参加意欲を損ねないよう声かけ、言葉遣い等細心の注意をして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・外出等、本人の希望や意向を聞いたり、本人の様子や反応を見て、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとり、好きな場所で、好きな事をして過ごしている。また、散歩したい利用者様がいれば、他の職員と協力して、できるだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行ったり、逆に来て頂いたり、季節に合った好きな服を選んだり、外出や行事の時は、化粧をするなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に調理をしたり、後片付けを行っている。また、個々の食の好みを把握して、誕生日の日には、好物を食べてお祝いをしている。	味噌汁の味付けや調理など、積極的に参加できる方には一緒にやって頂いている。利用者の希望を聞いて、献立メニュー等決めている。食材の購入は、週2回出かけているが、冬場は寒いため(利用者は)、出たがらないこともある。行事食も皆で工夫し、寿司、ケーキ等手作りして喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの状況に応じて、補食を準備したり、食事形態を変えるなどして、提供している。水分量も足りないようであれば促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、個々の口腔状態に合わせた用具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを見極め、声がけにてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	リハビリパンツを使用している方が7名いる。日中は8名が自立排泄で、介助を必要とされる方は1名となっている。タイミングを見ながら声かけ、トイレ誘導して支援している。失敗しても、トイレから風呂場へ繋がる構造になっており、プライバシーに配慮した工夫が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、食物繊維の多い食事、甘酒の提供など行い、体に無理の無い軽体操の声がけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの状況や体調に合わせて、入浴を支援している。	入浴は1日おきに実施している。夏場のシャワー浴はいつでも利用可能である。現在は、午後の明るい時間帯に入浴を希望する方が多い。車椅子の方はバスボードを使用し、安全に配慮した支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせて、声がけをし安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬によっては、代替食を提供したり、症状の変化を主治医に相談して、薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や生活歴を知り、役割を分担している。やりたい事・行きたい場所に行けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の精神状態に合わせて、その都度対応している。天気の良い日は、散歩や買い物に行き、気分転換を図れるよう支援している。	暖かい時期は、毎日のように近隣のコンビニ、餅屋、公園等へ、散歩やドライブをしている。病院受診時に、途中で、自宅の周辺に立ち寄り、家を見たり、家の様子を確認して安心・安堵することで、気分転換を図る方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様は、自分で買い物をして、おこずかい帳をつけていた。管理ができない利用者様は、ホームで立替して、好きな物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの電話の取次ぎ、本人の希望時は、電話をして話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、明るさや室温調整が可能。季節感を感じれるよう花を飾ったり、季節に応じた飾りつけを一緒に行っている。	共用スペースの食堂・台所・居間が中心にあり、居室・浴室・トイレ等が、どの位置からも見えるので、居心地よく、安全な空間となっている。床暖房で暖かく、外からの日差しも適度に差し込み、快適な状況となっている。また、みずき団子を飾るなど、季節感を引き出すような工夫も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・長椅子・畳など、好きなところで過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた筆筒を持参する方はいないが、本人の意見を取り入れて、過ごしやすいように、家具を配置している。	大きめのクローゼットと、ベッドは備え付けてある。本人や家族の意向を聞きながら、居室作りをしている。居室の蛍光灯の位置を変更したり、ベッドの手すり部分に保護カバーを付けたり、皆で工夫して、利用者本人にとって、より良いことは、率先して実施するよう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいよう、看板を設置している。各部屋の入り口は、好きな絵や写真を飾り、利用者様の希望もあり、名前を付ける事で理解して自分で行動できている。		